

地球環境と世界市民

EARTH ENVIRONMENT AND GLOBAL CITIZEN

第2回 日中環境教育情報交流シンポジウム

「日中のパートナーシップによる環境教育

- 総合的な学習をめぐって -」のお知らせ

本協会の中国支部である日中環境教育情報交流協会主催の第2回日中環境教育情報交流シンポジウム(日本環境教育学会関西支部共催)を行なう予定です。大会テーマ「日中のパートナーシップによる環境教育 - 総合的な学習をめぐって -」です。日本と中国とのパートナーシップ、総合的な学習における環境教育情報交流を展開する予定です。王宗敏氏に、中国における環境教育の総合的な学習について御講演いただいた後、中国側から宋豫秦氏、田徳祥氏より中国側の環境教育の取り組みの事例報告、日本側から環境省の浅野能昭氏に環境政策におけるパートナーシップによる環境教育の取り組み、和田武氏に日本の大学における取り組み、本庄眞氏に小学校における取り組みについて討論していただく予定です。皆さまのご参加をお待ちしております。

さらに、一般研究発表を募集致します。発表ご希望の方は、11月6日(水)迄に御氏名・連絡先・発表タイトルを事務局までお送りください。発表要旨(A4用紙一枚・1600字程度)は11月11日(月)迄に下記事務局宛てに郵送またはE-mailでお送りください。

【中国側のゲスト紹介】

王宗敏氏：1936年10月5日生まれ。天津市教育科学研究院研究員(教授)原院長学求委員会主任。

田徳祥氏：1938年5月18日生まれ。北京大学教授、環境教育教研室主任。

宋豫秦氏：1953年9月9日生まれ。北京大学環境科学中心副教授、生態教研室主任。

金世柏氏：1925年6月21日生まれ。中国中央化学研究所名誉教授・顧問、元中国比較教育学会副理事長兼事務局長。国务院より特別貢献にあたる教育科学学者表彰状を受ける(1991年)

プログラム

9:15 受付

9:45 研究発表

A 分科会：テーマ・総合的学習の時間

B 分科会：テーマ・一般演題

11：45 昼 食

12：45 開会挨拶・ゲスト紹介 谷口文章氏（甲南大学教授）

13：00 特別講演：「中国の小・中学校における環境教育の総合的学習」

王 宗敏 氏（天津教育学院 院長）

14：00 休 憩

14：20 日中環境教育情報交流 第2回シンポジウム

- 日本と中国における環境教育のパートナーシップ -

コーディネーター：谷口 文章 氏（甲南大学 教授）

シンポジスト：

田 徳祥 氏（北京大学 教授）

「北京大学における環境教育カリキュラム - 総合的学習の視点から - 」

宋 豫秦 氏（北京大学 教授）

「文明の盛衰と砂漠化 - 総合的学習としての環境考古学の立場から - 」

浅野 能昭 氏（環境省環境教育推進室 室長）

「日本における環境教育政策 - 日中のパートナーシップ」

和田 武 氏（立命館大学 教授）

「日本の大学における総合的学習 - 環境教育を中心に - 」

本庄 眞 氏（香芝市立真美ヶ丘東小学校 教諭）

「日本の小学校における環境教育の総合的学習」

【通 訳】 金 世柏 氏（中国中央教育研究所 名誉研究員）

17：50 閉会挨拶 谷口 文章 氏（「地球環境と世界市民」国際協会 会長）

18：00 懇 親 会（会場：甲南大学生協レストラン）

開催期日：2002年11月30日（土）

会 場：甲南大学10号館（1012、1021、1022 教室）

主 催：「地球環境と世界市民」国際協会・日中環境教育情報交流協会

中日環境教育情報交流協会

共 催：日本環境教育学会 関西支部

後 援：文部科学省・環境省・兵庫県・兵庫県教育委員会・神戸市

神戸市教育委員会（予定）

参 加 費：会員 1000 円 非会員 1500 円 学生会員 500 円

懇親会費：一般 4000 円 学生：2000 円

お問合せ先：「地球環境と世界市民」国際協会事務局

〒658-8501 神戸市東灘区岡本8-9-1 甲南大学文学部 谷口研究室気付

TEL・FAX:078-435-2368【直通】 E-mail:fumiaki@konan-u.ac.jp

【会場へのアクセス】



阪急岡本駅より徒歩約10分

JR 摂津本山駅より徒歩約10分

TEL : (078) 431-4341 (大代表)

「地球環境と世界市民」国際協会・第5回大会報告

「生命40億年の歴史と人間数千年の歴史」：第五回大会基調講演

谷口文章（「地球環境と世界市民」国際協会会長）

中村運先生（甲南大学名誉教授・生物学）がマクロ的視点から生命40億年の歴史を話され、そのあと筆者が引き続き人間の数千年の歴史について話をした。

「個体発生は系統発生を繰り返す」（ヘッケル）といわれるように、人間は母体の中で生命40億年の歴史（系統発生）を繰り返して、人間（個体）として体外に出てくる。ここに、一人間の中に生命40億年の歴史を見ると同時に、また空間的にも内の環境と外の環境が入れ子状になっていることを確認できる。こうして、外の環境の破壊・汚染は内の環境の破壊・汚染につながる事がわかる。

ところが、記録を残されて私たちが理解に及び人間の歴史は、数千年しかない。にもかかわらず、その数千年の人間の歴史において、人間が生態系を傲慢にも破壊してきた。人間と自然が共生を要求されるゆえんである。空間としても、人々が現実生活をするのは地球単位であろう。地球が人間にとっての生態系という具体的な生活空間と考えられる。

したがって環境問題を考えるためには、人間の歴史である数千年の時間と地球単位の空間を考慮しなければならないであろう。

このようなことから、21世紀は「生命と環境」の時代であることがわかる。したがって、「生命」の教育がなされる必要があるとともに「環境」の教育もなされなければならない。その教育は生命倫理と環境倫理に基礎づけられた教育であるといえよう。



琴引浜（レイチェル・カーソンの見た浜辺のように）



中村運先生とご一緒に

ワークショップ報告

ワークショップ 「自然と親しむ散策時間」ネイチュアゲーム 報告

山田悦子(山田技術事務所)

8月に開催された「地球環境と世界市民」国際協会第5回大会のワークショップ「自然と親しむ散策時間」で、希望者を対象にネイチュアゲームを行いました。プログラム内容は、「森の色あわせ」「フィールドビンゴ」「フィールドパターン」の3種類です。これらは配られた色カード、ビンゴカード、パターンカードにかかれています。これらは配られた色カード、ビンゴカード、パターンカードにかかれています。自然の中で探すゲームです。今回の参加者は12名(大人10名・子ども2名)で、4人ずつ3グループに分かれてプログラムをすすめていきました。グループで活動するにあたって、協力し合う気持ちを高めるためにもグループ名をメンバーの話し合いで決めることにしました。それぞれの名前は「プリティー」「ローズ」「スイマーちゃん」。

「森の色あわせ」では、どのグループが一番カードに近い色のものを自然の中で見つけたかを競いました。緊張感のたただよう中、スタッフによる話し合いで審査が行われ、発表の時には歓声も上がっていました。その後、「フィールドビンゴ」と「フィールドパターン」は、歩いて20分くらいの道のりを散策しながら行いました。林を抜けて、田んぼや畑、竹林の横の農道を通って戻ってくるコースです。グループごとにカードにかかれています。探しながら、途中、珍しい木の葉を採集したり、植物に詳しい参加者に木の実の名前やその由来を教わったりと、おしゃべりをしながらの楽しい散策になりました。葉の裏についている虫の糞を「生き物のたまご」と間違えるグループや、草の茎を切って断面に「星型」のパターンを見つけるグループなど、熱心に取りくむ様子が見られました。

プログラムの最後に、見つけたものを発表したり話し合ったりする分かち合いの場を十分に持つことが出来なかったのが少し残念でした。参加者の皆さんはそれぞれ自然に親しんで来られた方がたでしたが、今回は特に色や形に注目して、日頃見慣れているものを違う視点で見るといいう楽しみ方が出来たのではないのでしょうか。



< 参加者の声 >

基調講演の中村先生、谷口先生の話は、非常に興味深かったです。環境と生命は切っても切れない関係（表裏一体）であることが再認識できました。

渡邊隆俊（愛知学院大学）



環境問題の原点は自然にあり、教育の原点は環境教育にある。第5回大会に参加して、「環境問題の原点は自然にあり、教育の原点は環境教育にある」とつくづく感じた。幼少の頃から、花を愛でる心、自然を愛する心が感情的な知性（EQ）を豊かにし、自然を通じて人・動物・虫・植物とのふれあい、さらに感情的知性を高め、人格に関する知性（PQ）の体験学習がいかに大切であるかを認識させてもらった。市民に対する環境ボランティア活動のプランナーとして環境学習の努力を痛感した次第です。

松井壯兒（エコクラブこうなん）



甲南大学環境教育野外施設の紹介、活用、やはり野外活動の重要性をあらためて知りました。ピオトープや竹細工、他人との関わりの中で環境を考えることの重要性を知りました。

清水実（兵庫教育大学）



地球規模での環境問題は、学際的な観点が必要で、多様な課題を抱えていると思います。世界人類が平和な生活を送れる地球的な環境問題は、これから重要なことだと考えます。

谷荘吉（はやしやまクリニック）



有機農業体験とビオトープ施設見学参加のご案内

2002年11月16日(土)にフィールド・ワークをおこないます。午前中は甲南大学環境教育・体験学習フィールド(広野)で農作業を体験し、午後は神戸市水環境センターの諸施設におけるビオトープの取り組みを見学します。

午前中は、有機農法により栽培されたさつまいもの収穫体験などをおこないます。また、現在、神戸市建設局東部建設事務所水環境センター内において、市民参加型のビオトープづくりを計画中です。これまで、神戸市では垂水処理場(須磨区)やポートアイランド処理場(中央区)などの下水処理場において処理水を利用した、ビオトープ施設がつくられています。そこで、午後はこうした神戸市における水環境センターの取り組みを直接現地にて視察した後、ビオトープ製作予定地を見学いたします。多数のご参加をお待ちしております。



芋掘りの様子(2001年10月)

日 時：2002年11月16日(土) 8:45～16:00

集合場所：甲南大学正門前 8:45 集合，16:00 解散

場 所：甲南大学環境教育体験学習フィールド(広野)

垂水処理場「恋人岬～ビオトープ」

玉津処理場「水車とせせらぎの散歩道」

神戸市建設局東部建設事務所水環境センター(東灘処理場)(予定)

参加費：500円(昼食はご持参ください)

申込み方法：10月31日(木)必着で「地球環境と世界市民」国際協会事務局(12ページ参照)まで葉書かFAX、E-mailでお申込みください。

トピックス

水環境フェア2002～市民と共に歩む下水道を目指して～

2002年9月15日(日)神戸市建設局東部建設事務所水環境センター主催の下、「水環境フェア02」が行われた。後援として「地球環境と世界市民」国際協会、日本環境教育学会関西支部、いのちの電話、東部市場などが参加した。

このイベントの目的として、地域住民に水環境センターの仕組みを理解してもらうためや下水道の役割を説明や施設の認識度の向上があげられる。これによって地域に開かれた、市民に親しまれる下水道の目標が達成できると考えられる。

我々は日本環境教育学会関西支部と協力し、「環境教育とビオトープ」と題してパ

ネル展示をおこなった。ここではいろいろなビオトープの種類を紹介し、ビオトープをフィールドとした環境教育を提案した。

今回は約2000名の参加者があった。多くが地域の子供やその親であった。結果として地域住民に水環境センター、下水道の仕組みを上手くアピールできたのではないだろうか。

また、我々は日本環境教育学会関西支部、甲南大学、地域住民とともにセンター内に建設予定のビオトープの計画案作成に協力しており、今年度は地域のネットワークや予算計画を進めてきた。来年度からは基礎工事が始まる予定である。ビオトープの製作過程での参加や完成後の活用によって環境教育がおこなえるのではないか。



水環境センター内広場での
オープニングセレモニー



水環境センター内でのパネル展示

市民REPORT

カモシカ調査に参加して

藤井孝明（甲南大学）

9月28日（土）、29日（日）に奈良県教育委員会文化財保存課が実施している特別天然記念物カモシカ通常調査に調査員の一人として参加した。この調査に参加したきっかけは、8月21日（水）、22日（木）に行なわれた「地球環境と世界市民」国際協会では本庄眞先生と知り合ったことだった。そして、今回の調査に誘われ、よい機会を与えていただき、貴重な体験をした。

28日の前夜、奈良県十津川村に到着し、そこで翌日に備えて一泊した。登山は初めてだったし、どのような感じで調査しながら登るのかわからなかったので緊張した。28日に登る山は辻堂という山で、その三角点を目指しながらカモシカの調査をするというものだった。この日は本庄先生と弓場さん、高井先生の三人と一緒に登った。登り始めて少し経ち、私達が休んでいると、すぐ近くに蛇が現れてびっくりした。その蛇はヤマカガシという名で、毒をもっているのだが、血清が無いので噛まれたらお終いということを知り、気が引き締まった。実際登ってみると、はじめて見る植物などもあり自分にとってかなり新鮮な感覚やすがすがし

さを感じた。登りながら目に見える植物などについての色々な話を聞かせてもらった。その中で特に印象に残っている1つがミズメという木である。その木の皮を剥いでにおいを嗅ぐとサロンパスのにおいがするのだ。

三角点に到着すると、本庄先生の恒例である万歳三唱をみんなで行ない、昼食をとった。山頂で飲むビールは格別においしかった。登りは尾根を登っていったので帰りはさわをくだることになった。さわくだりはスリルがあり楽しかった。

29日は前日よりも厳しいものとなった。道なき急斜面を、草木をかきわけながら登る場面もあり、ヘトヘトになりながら登っていった。この日、植林をシカなどから守るために設置された防護ネットを見ることができた。防護ネットは何種類かあるらしく、今回あったものは1.5mぐらいの高さのもので、網の張り方なども合わせて考えると、このようなものではシカにとってあまり意味がないらしい。実際、保護している区域の中にシカの食べ後や糞があったり、網が破れている部分などもあった。衝撃的だったのは、シカの頭蓋骨がその網にぶら下がっているのを見つけたことだった。網に角が絡まって身動きが取れなくなり死んで白骨化したらしい。その他の体の部分は、肉と一緒に持っていかれたらしく、そこには残されてなかった。この角付きの頭蓋骨をお土産として、本庄先生にいただいて持ち帰った。この他三箇所、シカの遺骨を見つけた。防護ネットがシカを殺すことがあると知り難しさを感じた。この二日間の調査でカモシカに関するものを見つけることはできなかったが、シカの足跡、角のとき跡、食べ跡、糞、寝床を見つけることができた。その他にもクマの爪跡と思われるものや、イノシシの寝床も見つけることができた。シカの鳴き声を聞くことができたのだが、姿を見ることはできなく残念だった。

今回参加して、非常にいい経験になり、学ぶことが多かった。本庄先生は「自然塾」といって実際に体験しながら色々なことを学ぶことが大切であると言われていた。わたしにとって、この体験は、まさしく自然塾であり、自分が子どもだった頃の感覚がよみがえり、楽しむことができ、さらに自然の厳しさ、すばらしさを感じることができた。



安心洞(1099.4m)の三角点



カモシカの頭蓋骨



角のとき跡



調査の様子

ネットワーク掲示板

12月1日

公開シンポジウム

総合的学習における「環境教育」の展開

- パートナーシップ , 循環型社会 , 他者・国際理解をめぐる -

今般、平成14年度科学研究費補助金研究成果公開促進費「研究成果公開発表(B)」により、本学会では標記シンポジウムを開催致します。平成14年度からの「総合的な学習の時間」において、福祉・健康、国際理解、情報、環境が内容例としてとりあげられています。特に「環境教育」を小・中・高等学校の各発達段階で展開する場合、環境のテーマをどのように取り上げ、どのようにカリキュラムの中で展開するかについては議論のあるところ。そこで、本学会としてこれらの問題をどのように対応するかについて、学校現場の実践研究をふまえ、その方法・内容論とともに具体的な展開について公開論議と情報交流を行なうことを目的とします。第一部において実践モデルによる公開授業として各論を展開し、第二部において「パートナーシップによる環境教育の推進」のテーマのもとに公開シンポジウムを行なう予定です。

プログラム

9:30 受付開始

10:00 第一部：各論 - 総合的学習の実践モデルによる公開授業 -

コーディネーター：金田平氏(日本環境教育学会 広報委員長)

ワークショップ：

他者理解及び国際理解の視座からの環境教育【高等学校・模範事例】

ワークショップ：

循環型未来及びライフスタイルにおける環境教育【小・中学校・模範事例】

12:30 昼食

13:30 第二部：総論 - 公開シンポジウム「パートナーシップによる環境教育の推進」 -

挨拶 鈴木善次氏(日本環境教育学会・会長)

13:40 招待講演「パートナーシップによる環境教育・環境学習の推進」

浅野能昭氏(環境省 総合環境政策局 環境教育推進室 室長)

14:40 休憩

15:00 公開シンポジウム：

「総合的な学習のためのパートナーシップ - 環境教育の新たな展開に向けて - 」

コーディネーター：山田卓三氏(名古屋芸術大学教授)

シンポジスト：戸田耿介氏(京エコロジーセンター)

「環境政策の視点からのパートナーシップ」

佐島群巳氏(帝京短期大学)

「総合学習における環境教育のパートナーシップ」

村杉幸子氏(財団法人日本自然保護協会)

「自然保護活動における環境学習
- NGOでの取り組みにおけるパートナーシップ」

飯沼 慶一 氏 (成城学園初等学校)

「学校教育における環境教育

- 小学校での取り組みにおけるパートナーシップ」

西 徹 氏 (三ツ星ベルト) 「学社連携による環境教育」

金 世柏 氏 (中国中央教育研究所)

「日本と中国のパートナーシップによる環境教育」

17:30 総 括 谷口 文章 氏
(環境基本計画推進調査「パートナーシップ」による環境教育・環境学
ワーキング・グループ A 代表)

17:45 閉会挨拶 山田 卓三 氏 (公開シンポジウム 実行委員長)

17:50 閉 会

開催期日: 2002年12月1日(日)

会 場: 神戸国際会議場 3階 国際会議室 301 [神戸ポートアイランド]

主 催: 日本環境教育学会

【平成14年度科学研究費補助金研究成果公開促進費「研究成果公开发表(B)」】

後 援: 文部科学省・環境省・兵庫県・兵庫県教育委員会・神戸市・神戸市教育委員会・あおぞら財団(財団法人 公害地域再生センター)・財団法人 日本生態系協会(予定)

資料代: 500円

お問合せ先: 日本環境教育学会事務局(〒658-8501 神戸市東灘区岡本8-9-1 甲南大学文学部
谷口研究室気付)

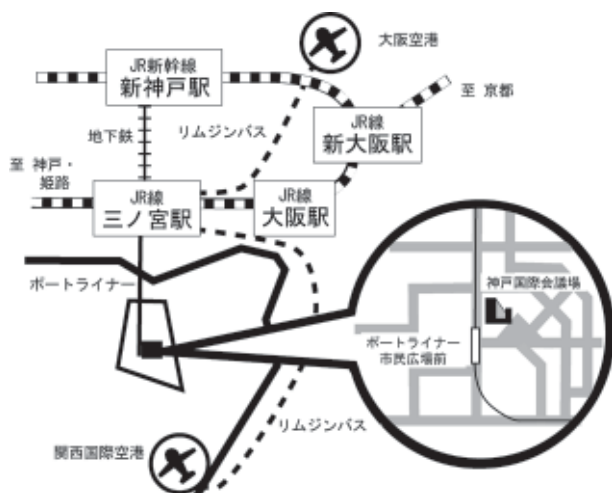
TEL・FAX: 078-435-2368【直通】 E-mail: fumiaki@konan-u.ac.jp

(申し込み方法)

参加申し込み方法: ハガキでお名前、連絡先、住所、所属を明記の上事務局までお申し込み下さい。当日参加もできます。

事務局: 〒658 8501 神戸市東灘区岡本 8-9-1 甲南大学文学部谷口研究室気付

【神戸国際会議場へのアクセス】



JR三ノ宮駅からポートライナー
(市民広場駅下車)で10分

JR新神戸駅から地下鉄(三宮駅乗
り換え)ポートライナーで20分

関西国際空港からリムジンバス(三
宮乗り換え)ポートライナーで80分

大阪(伊丹)国際空港からリムジンバ
ス(三宮乗り換え)ポートライナー
で55分

神戸国際会議場

〒650-0046

神戸市中央区港島中町 6-9-1

TEL: 078-302-5200

FAX: 078-302-6485

E-mail: info-kcva@exd.city.kobe.jp

エコ・クッキング レシピVOL. 7

赤尾多美、谷口ひろこ（エコクッキング・インストラクター）

茄子の鶏味噌和え

材料

茄子 4個、ピーマン 2～3個
鶏味噌（鶏ミンチ 70g、赤味噌 70g、砂糖 大さじ3～4、酒 大さじ2、
だし汁 大さじ3～4）

作り方

1. 茄子は、エコクッキングのため、なるべく、捨てるところのないように調理する。へたを、うすく切り落とし、水にさらす。ピーマンは、縦割り、種を出し縦長の4つに切る。
2. ボールに鶏ミンチをいれ、分量のだし汁の中から少しとって、のばしておく。
3. 古鍋に赤味噌を入れ、混ぜながら砂糖をあわせ、酒を加え、鶏ミンチと残りのだし汁を入れる。火にかけ、加減をみながらゆるめに練り上げる。
4. 油を160度くらいに熱し、茄子の水気をふき取って大きく乱切りしてゆっくりと色よく揚げる。ピーマンは、色をつけないように揚げる。
5. 器に茄子とピーマンを盛り、鶏味噌を添える。

なすの即席漬物風

材料

茄子、大葉、レモン（すだち）の皮

作り方

1. 茄子は縦切りしてから塩もみし、しぼる。
2. 大葉は千切りにして塩をふり、洗い、そしてしぼる。
3. レモン（すだち）の皮は千切りする。
4. 1, 2, 3を混ぜれば完成。

甘酢大根

材料

大根 1/2本、酢 100cc、みりん 100cc、さとう 200g、しお大3弱、ねりがらし大2

作り方

1. 大根は皮をむいて一口大の乱切りにする（皮は油いためにできる）。
2. ビンに酢 100cc、みりん 100cc、さとう 200g、しお大さじ3弱、ねりがらし大さじ2を入れ、そのなかに大根を入れる。（完全に浸らなくても大根から水が出てくる。つけた翌日くらいから食べごろ。ブロッコリーの茎やキャベツの芯などをいれてもおいしい。）

事務局だより

- 1、2002年度拡大運営委員会（2002年8月20日 18:00-20:00 於：甲南大学10号館）が開催された。主な議事は、第3回総会議案（下記参照）について、今後の方針及び組織の見直しについてであった。今後の方針及び組織については、再度運営委員会及び事務局にて組織運営の強化をはかり、後日ニュースレターで発信することが確認。
- 2、第3回総会（2002年8月21日 13:20-13:50 於：甲南大学環境教育野外施設）が開催された。議長 今井 佐金吾氏（広島修道大学 教授）のもと、会長谷口 文章氏より下記の議案について説明が行なわれ、議案の承認をはかったところ、すべての議案について承認された。

「地球環境と世界市民」国際協会 第3回総会議案

開催日時：2002年8月21日（水）13:20～13:50、開催場所：甲南大学環境教育野外施設

第1号議案 2001年度事業報告（案）

運営に関する会議

1. 総会（2001年4月28日 於 甲南大学）を開催した。
2. サテライトシンポジウム「カナダの自然と環境教育 - 先住民の知恵を通じて -」（第4回国際保健医療行動科学会議）を開催した。
3. 2001年度拡大運営委員会として、第2回（2001年4月28日 於 甲南大学）第3回拡大運営院会（2002年8月20日 於 甲南大学）を開催した。

刊行物の発行

1. 年報『地球環境と世界市民』VOL. 2を2001年3月に刊行した。
2. 『地球環境と世界市民』ニュースレター第5号（2001年6月）第6号（2002年7月）第7号（2002年7月）に刊行した。

後援等の事業活動

1. 後援名義使用を承認した事業
第4回国際保健医療行動科学会議（第4回国際保健医療行動科学会議実行委員会）
第5回世界閉鎖性海域環境保全会議（第5回世界閉鎖性海域環境保全会議実行委員会事務局）を後援することを承認した。

第2号議案 2002年度事業報告（案）

1. 第3回総会を開催する（2002年8月21日（水）於甲南大学環境教育野外施設）
2. 第5回大会を開催する（2002年8月21日（水）～22日（木）於甲南大学環境教育野外施設）
3. 年報『地球環境と世界市民』VOL. 3を刊行する。
4. 『地球環境と世界市民』ニュースレター4回 - 6回を刊行する。
5. 諸外国の環境教育関連学会等との情報交流を行なう。
6. 環境教育に関するワーキング・グループ（ピオトープ【神戸市水環境センター】[自然と生命の環境研究会]、パーマカルチャ[社会と文化の環境研究会]、エコ・クッキング[生活の知恵研究会]）の設置を行なう。
7. 第2回日中環境教育情報交流シンポジウムを開催する。
8. 各種事業の共催・協力・後援等を行なう。
9. その他、協会の発展に寄与する活動を行なう。

「地球環境と世界市民」国際協会ニュースレター No. 8

事務局：「地球環境と世界市民」国際協会

〒658-8501 神戸市東灘区岡本8-9-1

甲南大学文学部人間科学科 谷口研究室内

Tel/Fax.078-435-2368 E-mail: fumiaki@konan-u.ac.jp

Homepage: http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/iaeg/iaeg_j.html